



第4回 WNH (Wound Nutrition Human Life) 「創傷・栄養と人生を考える」合宿

創傷ケアや栄養を考える時、突き詰めていくと、人の生き方(どのように生きていくのか・生きてきたのか)が大きく関与していることに気づきます。そこで今回も、各方面で大活躍中の8名に人生について語ってもらい、2日間一緒に過ごしながらかディスカッションしていききたいと思います。定員120名で企画しました。日帰り席もあります。

WNH合宿実行委員長 高岡駅南クリニック院長 塚田邦夫

[日時] : 平成28年10月1日(土曜日)12:00 ~ 2日(日曜日)16:05

**[場所] : INTEC 大山研修センター http://www.intec.co.jp/company/training_center/
富山市東黒牧140-1 Tel:076-483-8111**

☆ プログラム ☆

<10月1日>

12:00~ 受付・企業展示

12:50~ 開会挨拶と説明

13:00~15:30 (1)在宅栄養・摂食嚥下 演者:塩野崎淳子・一瀬浩隆

コメンター:中村伸一・平澤哲哉

15:45~18:15 (2)コミュニケーション 演者:高瀬義昌・佐藤由美子

コメンター:高木信義・塚田桂子

19:30~ 夕食会と懇親会

<10月2日>

7:30~ 朝食・企業展示

8:40~9:10 企業のプレゼンテーション

9:20~11:50 (3)住民の力 演者:中村伸一・高木良信

コメンター:塩野崎淳子・高瀬義昌

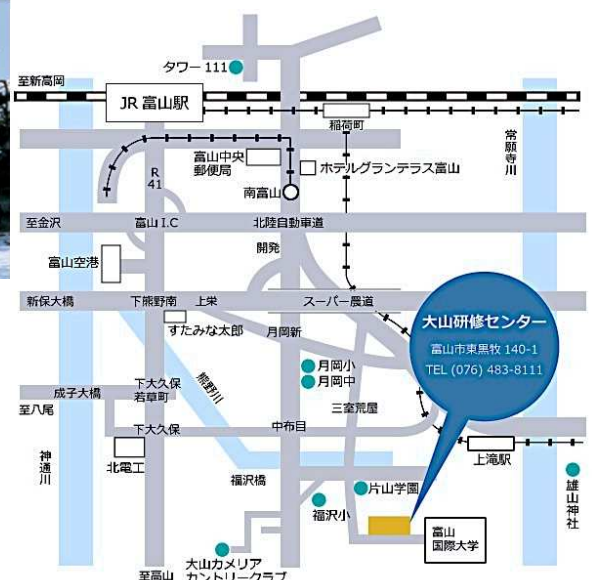
11:50~12:50 昼食・企業展示

12:50~13:20 企業のプレゼンテーション

13:30~16:00 (4)障害と人生 演者:塚田桂子・平澤哲哉

コメンター:佐藤由美子・一瀬浩隆

16:00~ 閉会挨拶



[主催] : WNH合宿実行委員会、高岡駅南クリニック

**[後援] : 富山県医師会、富山県看護協会、
富山県栄養士会、富山県理学療法士会
富山県保険医協会、石川県保険医協会**

問い合わせ:高岡駅南クリニック 藪岡 Tel:0766-29-1200

申し込み :高岡駅南クリニック 担当 藪岡(やぶおか)

Tel:0766-29-1200、Fax:0766-29-1222

本用紙を FAX にてお送りください

FAX : 0766-29-1222 高岡駅南クリニック 藪岡(やぶおか)

第 4 回 WNH 合宿 申込書

合宿参加希望の方は、下記の必要事項をお書きの上、FAX でお申し込み下さい。
締切は、9月16日を予定しております。(定員 120 名)

*御氏名		*施設名・所属部署名	
*連絡先住所			
*TEL / FAX	TEL	FAX	
e-mail			

*は必須事項 (FAX または e-mail のどちらか必ずご記入ください)
ご記入いただきました個人情報、本合宿以外の目的では使用いたしません。

1) 宿泊なしの方 (○をつけて下さい)

() 講演のみ(2日の昼食を含む)(事前受付 8,000 円, 当日受付 10,000 円)、
() 懇親会 (7,000 円) 講演は 1 日のみでも両日参加でも費用は変わりません

2) 宿泊される方 (○をつけて下さい) : 講演・懇親会・朝食・昼食を含む(事前のみ)

() 1 人 20,000 円 : 相部屋ですが、部屋割りは当方にお任せ下さい。

同じ部屋がご希望の方は、連名で申し込んで下さい。

代表者名	1	(男・女)
同室者名	2	(男・女)
	3	(男・女)
	4	(男・女)

※申しいただきましたら、振込先を記載致しました申込受領のご案内を FAX または e-mail にて送付させていただきますのでお振込手続を宜しくお願い致します。

FAX 送信先 : 0766-29-1222(高岡駅南クリニック)担当:藪岡(やぶおか)

問い合わせ : 高岡駅南クリニック 事務局 藪岡治明 info@ekinan-clinic.com

<演者紹介>

- ・塩野崎淳子 (むらた日帰り外科手術・WOCクリニック 宮城) 「食べる楽しさで在宅療養を支えたい」
「在宅療養を支えたい」をモットーに宮城で先陣をきって在宅訪問管理栄養士として活動している。
- ・一瀬浩隆 (山谷歯科医院・気仙沼市立本吉病院 宮城) 「なぜ気仙沼で口から食べることに燃えたのか」
震災のボランティアをきっかけに気仙沼に移住。摂食嚥下リハビリテーション、訪問歯科診療などを行っている歯科医師。
- ・高瀬義昌 (たかせクリニック 東京) 「認知症に優しい成熟した社会を目指して」
癌ではない領域で、看取りの医療としても認知症に取り組んでいる。
- ・佐藤由美子 (青森慈恵会病院 米国認定音楽療法士 青森) 「音楽が塞がれた患者の心を開く」音楽療法をアメリカで
学びアメリカのホスピスで 10 年間音楽療法士として働く。死に近い人の聴覚は最後まで残り、音楽は死を目前とした患者や家族に安らぎを与える。ホスピスは死ぬための場所ではなく「生きる」を強く意識する場所。
- ・中村伸一 (おおい町国保名田庄診療所 福井) 「お互いさま:地域を支えていたのに、地域に支えられていた」
住民たちの命と健康を支え、時には逆に支えられながら医師として成長してきた。NHK プロフェッショナル仕事の流儀にも登場。
- ・高木良信 (イタイイタイ病対策協議会副会長 富山) 「命を守るを見失わないことが住民運動の基本」
ノーベル賞でわく神岡で発生した公害、日本における戦後住民運動の原型とも言われる「イタイイタイ病裁判」。静かな口調の中に迫力と説得力のある歴史の語り部。
- ・塚田桂子 (株式会社マザー湘南代表取締役 神奈川) 「重い障害を持つ方:一人ひとりの心に寄り添いたい」
重度心身障害児を受け入れるサービスを始めるにあたり、仲間を作って確実に前進している。
- ・平澤哲哉 (東山地区失語症友の会 山梨) 「地域でことばを失った人を支える～言語聴覚士の在宅ケア～」
大学 3 年の時交交通事故で失語症になった。その後自らが言語聴覚士となり、さらに 2002 年在宅言語聴覚士となった。

第4回「創傷・栄養と人生を考える」合宿 演者紹介

塩野崎淳子 (むらた日帰り外科手術・WOCクリニック) 宮城

「食べる楽しさで在宅療養を支えたい」

在宅栄養管理学会宮城県支部長を務め、仙台市内を中心に宮城県内を訪問し飛び回る管理栄養士。「好きなものを安全に美味しく食べさせてあげたい」「食べる楽しさをもう一度味わって欲しい」そして「在宅療養を支えたい」をモットーに宮城で先陣をきって在宅訪問管理栄養士として活動している。

一瀬浩隆 (山谷歯科医院・気仙沼市立本吉病院) 宮城

「なぜ気仙沼で口から食べることに燃えたのか」

震災のボランティアをきっかけに気仙沼に移住。歯科医院と病院に勤務し、摂食嚥下リハビリテーションや訪問歯科診療などを行っている歯科医師。震災を通じて、気仙沼での活動の経緯をご紹介いただく。

高瀬義昌 (たかせクリニック) 東京

「認知症に優しい成熟した社会を目指して」

何をすることも人間同士のコミュニケーションが一番大切。在宅医療は、頭で考えるより体で感じる。在宅医療をやろうと思ったとき「一番多い病気にしつかりと対応できなければ、本当の家庭医ではない」と感じた。最も多い疾患の一つが認知症である。癌ではない領域で、看取りの医療としても認知症に取り組んでいる。

佐藤由美子 (青森慈恵会病院 米国認定音楽療法士) 青森

「音楽が塞がれた患者の心を開く」

音楽療法をアメリカで学び、アメリカのホスピスで10年間音楽療法士として働く。死に近い人の聴覚は最後まで残り、音楽は死を目前とした患者や家族に安らぎを与える。ホスピスは死ぬための場所ではなく「生きる」を強く意識する場所。生きるを学ぶ。

中村伸一 (おおい町国保名田庄診療所) 福井

「お互いさま:地域を支えていたのに、地域に支えられていた」

住民たちの命と健康を支え、時には逆に支えられながら、医師として成長してきた。自宅でも過ごすことができるように訪問診療に力を注ぎ、行政をも巻き込んだシステム作りを行っている。NHKプロフェッショナル仕事の流儀にも登場。

高木良信 (イタイイタイ病対策協議会副会長) 富山

「命を守るを見失わないことが住民運動の基本」

ノーベル賞でわく神岡で発生した公害、日本における戦後住民運動の原型とも言われる「イタイイタイ病裁判」。住民の命を守るため開始した活動。弁護団は、右の人も左の人も加わり、住民も職業によらず幅広い参加者で構成された。静かな口調の中に迫力と説得力のある歴史の語り部。

塚田桂子 (株式会社マザー湘南代表取締役) 神奈川

「重い障害を持つ方:一人ひとりの心に寄り添いたい」

重度心身障害児を受け入れるサービスを始めるにあたり、少しずつ回りの状況を変えていき、また仲間を作って確実に前進している。覚悟を決め、無理をしないで、一人ひとりが自分らしく輝き続けるため、心に寄り添い、地域社会との架け橋になれることを目指す。

平澤哲哉 (東山地区失語症友の会 在宅言語聴覚士) 山梨

「地域でことばを失った人を支える～言語聴覚士の在宅ケア～」

大学3年の時交通事故で失語症になった。その後の辛い時の気持ちは、自らが言語聴覚士になることで減った。たどり着いたのは、「病院だけでは言葉は良くならない」。退院後に生き活きと生活するためのリハビリテーションが始まる。そして2002年在宅言語聴覚士となった。